令和3年度学校評価書

福井県立勝山高等学校

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程・学習支援	①主体的に学ぶ姿勢を育成する授業のあり方を研究し実践する。 ②授業研究の成果を生かして、生徒の主体的な学習活動を促す。 ③図書利用における環境整備に努め、図書館や学級文庫の利用を促す。	次年度入学生より新学習指導要領が適用され、観点別学習評価の本格運用も始まるが、その準備は昨年度以前から始めているため、生徒の主体的に学ぶ姿勢を育成する授業の研究に取り組んだ教員の割合は96.1%と、昨年度の数字とほとんど差がなかった。しかし、その授業を十分実践できたと答えた教員の割合はそれより20%少なくなっており、生徒の主体性を伸ばす授業づくりに苦慮している様子がうかがえる。生徒の主体的学習活動については、取り組みができている生徒が82.1%おり目標を達成できているが、ほとんど取り組みができていない生徒が17.5%もおり、取り組みができている生徒との学習成果の差の拡大が懸念される。 生徒の朝読書の取り組みについては、習慣化できている生徒は87.0%を占めているが、昨年度より約5%低下しており、目標指数の90%を下回る結果となった。本校の取り組みが後退したわけではなく、読書環境の整備についての生徒・保護者の評価は昨年度より上がっていることから、社会全般に進行している高校生世代の読書離れの影響をいかに食い止め、これまでの読書習慣をどう維持していくかを検討していく必要がある。	生徒が主体的に学ぶ姿勢を育成する取り組みについては今後も継続して行うが、来年度は評価をどう授業改善に結びつけるかに重点を置いて研究・実践を進めていく。また、観点別評価に移行することで評価にかける時間が大幅に増え、生徒の学習活動のための時間確保にも影響が見込まれることから、すでに導入されている情報機器を効果的・効率的に用いながら、授業における学習活動の時間確保にも取り組んでいく。 　朝読書については、次年度も引き続きその目的や意義を生徒・保護者および教職員に周知しながら、取り組みを継続するとともに、各教科とも連携しながら、生徒を読書に向かわせる方策の検討と実践を行う。読書環境の整備については、図書購入や図書館内の環境整備の際に生徒の要望を取り入れる機会を増やす、図書委員を中心に効果的な広報活動を考える、魅力的な図書館イベントを企画・実行するなどの取り組みを行う。
地域・保護者との連携	④情報機器を利用して情報を発信することで本校の教育活動への地域･保護者の理解を深め、連携を強化する。	ホームページをより見やすく魅力的なものにするため、年度途中に全面リニューアルを行った。しかし、教職員・生徒・保護者向けに発信するオンライン情報のほとんどはメール等など即時性のある別の手段を用いているため、ホームページの認知度や利用率は伸びず、肯定的な回答は半数程度にとどまった。また、保護者から要望の強い行事予定や生徒の様子（行事など）などの情報掲載は、あまり頻繁に行うことができなかった。	ホームページの維持・管理には時間と人員が必要となるため、担当者の業務や人員配置などの見直しを行い、見る人の側に立った質の高いホームページの作成ができるよう環境を整える。また、ホームページ以外の方法でも、保護者を含めた地域へ本校の取り組みをより一層ＰＲし、本校の諸活動への参加・協力・支援を呼びかけていく。
生徒指導	①容儀を整え積極的に挨拶ができるように、全教職員の共通理解を図った上で、継続的な指導に取り組む。	代議員や生活委員が主体となり、容儀検査を実施する体制に変更した結果、生徒の成果指数は96.5%、保護者の満足度指数は90.1%で、ともに目標指数を上回り、満足がいく結果となった。一方、教職員の取り組み指数は88.9%で昨年より8ポイント減少し、目標指数を下回った。	容儀については、整えることの意義や必要性を説き基準をはっきり伝え、全教職員の共通理解のもと、保護者と連携して継続的に指導する。また、挨拶は良好な人間関係を築く第一歩であることを周知させ、自ら進んで、学校、家庭、地域でも挨拶ができるよう集会等で指導する。毎朝、生徒指導部教諭が生徒玄関で、挨拶指導を行う。
	②生徒の人権意識や規範意識が高まるように指導を行う。	コロナ禍で生徒同士の交流に制限がかかる中、生徒の成果指数は90.9%、保護者の満足度指数は90.1%で、ともに昨年より2.1%、1.6%上昇し目標指数を上回り、満足がいく結果となった。一方、教職員の取り組み指数は92.5%で昨年より7.5ポイント減少し、目標指数を下回った。	自他の生命や人権を尊重することは、良好な人間関係を築く第一歩である。そのため、思いやりや助け合いの心を持って行動する態度を育てる必要がある。講演会、月等朝礼、学年集会などの指導を通して、社会の一員として社会に貢献できるよう、保護者や地域の人々と連携をとりながら進めていきたい。
進路指導	①自らの進路について考える機会の充実と進路情報の効果的な活用を図り、主体的かつ適切な進路選択を支援する。	「面談等による生徒との意思疎通」は、昨年度に続き１００％で目標を達成できた。「生徒への積極的な進路情報提供」が目標達成どころか、昨年度よりも約５ポイント目標指数が減少してしまった。 生徒の「面談やガイダンスを通して得た情報により，進路目標を明確に持つ」は，3年生の指数が3年間で72.2%→70.5%→93.3%となり、目標の90%を超すことができた。2年生の指数も86.2%→87.0%と指数が伸びていることも評価できると考える。 保護者の「進路に関する情報の提供」に対する満足度は、83.8%と昨年度よりも微増したが、目標(90%)までまだ届かない。 それぞれの進路目標を意識させるために，取組の継続と工夫がまだまだ必要である。	1・2年次からしっかりとした進路目標を持たせるために、進路希望調査、進路ガイダンス、小論文・志望理由書指導、企業見学、キャリア教育、模擬講義、専門学校・職業講話、就職・公務員ガイダンス、各種模擬試験、進路指導部通信発行などの進路行事を行っている。しかし、例年通りでは、内容はどんどん劣化するし、時代は常に変化しているので、常に内容を見直し、真に生徒たちに必要なこと・ものは何かを考え、見極め、提供していかなければならない。なお、その運営に関しては、生徒の実態に沿うように学年会と連携を今まで以上に深めていきたい。４月当初に行った「振り返り」の重要性を伝えた学年ごとの進路ガイダンスは、生徒にとって刺激のあった企画となった。
	②模擬試験等の結果分析を有効活用し、学力向上に努める。	５教科担当者の「模試の事前･事後指導」への取組指標は、昨年度より２ポイント増加したが、目標(90%)をやや下回った。 生徒の「模試への過去問演習や復習の取組」への成果指標は昨年度より、３ポイント増加したが、目標の(70%)には、あと４ポイント届いていない。まだまだ、生徒に対して、模擬試験等の重要性を伝えきれていないようだ。保護者の「模試結果を見ての子供との話し合い」への満足度指標は、毎回話している(A)は増加したが、おおむね話している(B)がやや減少したため、昨年度から２ポイント減少してしまった。	生徒が自ら、模試の過去問演習や弱点補強のための復習に取り組むように、学年会・教科とも連携して意識の向上を図らなければならない。進路指導部通信等での啓蒙活動も継続するが、どうすれば通信を生徒、保護者に読んでもらえるか常に考えていく必要がある。保護者と生徒は「個票綴り」を介して進路について話し合い、それが意思疎通の機会となっているので、今後もこの取組は継続していく必要性がある。ただ「個票綴り」を生徒に渡すだけでなく、担任・教科担が「個票綴り」の大切さ・有効活用を常に生徒に伝えていかなければならない。
保健管理	①生徒とともに清掃活動に取り組み、学習環境の美化に努める。	全ての観点で目標指数を上回った。生徒回答の「清掃活動に真面目に取り組んでいる。」の項目でＡ+Ｂの合計値は97.6%と、非常に高い水準であった。	日々の清掃活動については清掃強化週間も含め、今年度の活動を継続する。清掃への取り組み方を周知徹底させ、状況に応じて注意喚起する等、年間を通して指導していくことで満足度をより高められるよう努力する。
	②不適応やいじめの早期発見・対応と特別支援が必要な生徒への支援の充実に努める。	昨年度に引き続き今年度も、全ての観点で目標指数を上回ることができた。生徒は、「相談しやすい」が79.4%と、3.6%上昇している。また、保護者の「相談しやすい」も79.9%と、3.5%上昇している。更に生徒や保護者への働きかけを進めていく。	生徒との関わり、クラス担任・学年会との連携を通して、学校生活への適応に困難さを感じている生徒の早期発見・対応に努める。特に気がかりな生徒への個別対応を充実させる。定期的に生徒には、相談室や保健室の役割について知らせていく。保護者にも、相談活動について知ってもらえるように、引き続き情報発信していく。